

第228回 大阪小児科学会WEB (LIVE) 配信

◇◇ プログラム ◇◇

■ Aセッション(14 : 00~14 : 24)

座 長 石 川 順 一 (大阪市立総合医療センター 小児救命救急センター)

1. *Streptococcus gallolyticus* subsp. *pasteurianus*による新生児細菌性髄膜炎の2症例
大阪市立総合医療センター 新生児科¹⁾, 同 感染症内科²⁾
福井秀吉¹⁾, 山下裕加¹⁾, 中河秀憲²⁾, 安藤洸平¹⁾, 野々村光穂¹⁾, 田邊裕章¹⁾,
朝田裕貴¹⁾, 岩見裕子¹⁾, 松村寿子¹⁾, 原田明佳¹⁾, 田中裕子¹⁾, 市場博幸¹⁾
2. 急性副鼻腔炎から波及した眼窩骨膜下膿瘍の1例
堺市立総合医療センター 小児科¹⁾, 同 耳鼻咽喉科²⁾
高橋実佑¹⁾, 高野良彦¹⁾, 伊賀順平²⁾, 田中智彦¹⁾, 入山 晶¹⁾, 高柳恭子¹⁾,
井代 学¹⁾, 川上展弘¹⁾, 長井美樹²⁾, 岡村隆行¹⁾

教育講演(14 : 24~15 : 24)

座 長 大 藪 恵 一 (大阪大学大学院医学系研究科 小児科学教室)

専門医制度 更新基準 iii小児科領域講習(1点)対象講習

「検尿異常を認めにくい小児腎疾患」

杉 本 圭 相 (近畿大学医学部 小児科学教室)

■ 休 憩(15 : 24~15 : 30)

■ 総 会(15 : 30~15 : 50)

議 長 泉 谷 徳 男 (泉谷こどもクリニック)

1. 会長挨拶
2. 令和元年度(平成31年度)決算報告及び令和2年度予算審議 (P14~P15)
3. 小委員会より (P16~P17)
4. 会員名簿の発行について (P17)
5. 倫理問題について

優秀演題賞表彰・受賞記念講演(15 : 50~16 : 00)

優秀演題賞：市立豊中病院 小児科 杉 浦 愛 子

受賞記念講演：「成長障害を合併したクローン病の2例」

(2019年6月15日 第222回一般演題)

■派遣報告(16 : 00~16 : 19)

座長 芦田 明 (大阪医科大学 小児科)

1. 日本小児科学会小児診療初期対応コースの参加報告
大阪医科大学 小児科¹⁾, 大阪医科大学 救急医療部²⁾
西本聡美¹⁾, 新田雅彦¹⁾²⁾, 芦田 明¹⁾
2. 令和元年度 小児在宅医療に関する人材養成講習会
(厚生労働省委託事業 在宅医療関連講師人材養成事業) の参加報告
大阪母子医療センター 呼吸器・アレルギー科
松本 昇

■Bセッション(16 : 19~16 : 43)

座長 内山 敬達 (社会医療法人愛仁会高槻病院 小児科)

3. 乳児血管腫に対するプロプラノロールの使用経験
大阪医科大学 小児科¹⁾, 大阪医科大学 形成外科²⁾
ト部馨介¹⁾, 井上彰子¹⁾, 鈴木 亮¹⁾, 市原佑紀²⁾, 瀧谷公隆¹⁾, 芦田 明¹⁾
4. シクロスポリンが著効したインフリキシマブ不応の川崎病の1例
関西医科大学 小児科学講座
神田咲希, 堀真一郎, 藤井喜充, 大町太一, 日笠幸一郎, 吉村 健, 金子一成

第14回「低線量被ばくを考えるセミナー」

日時：2020年12月5日(土)

大阪小児科学会 (TKP心斎橋駅前カンファレンスセンター) 終了後開催

会場：学会終了後、同じ会場で引き続き開催。講演と質疑で約2時間を予定。

「福島甲状腺がん多発と放射線量との容量反応関係の分析」

大阪赤十字病院附属大手前整肢学園
山本 英彦 先生

2011年3月の福島原発事故から来年3月で10年が経過します。2011年10月から始まった18歳以下の甲状腺スクリーニング検査も4巡目を迎え、2019年6月までに、少なくとも228名の穿刺細胞診で診断された甲状腺がんが報告されています。がん研究センターの評価でも有病率ベースで通常の数十倍の多発であることが確認されています。しかし、多発の原因については放射線被ばくなのか、スクリーニング検査や過剰診断による見かけ上の多発であるかの論議が続いています。

このような中で演者の山本先生は、福島原発事故当初から事故と健康障害の問題を一貫して研究されてきました。そして、2019年9月に医学雑誌Medicineに論文Association between the detection rate of thyroid cancer and the external radiation dose-rate after the nuclear power plant accidents in Fukushima, Japan「福島原発事故後の甲状腺がんの検出率と外部被ばく線量の関係」を発表され、甲状腺がんの検出率と外部実効線量率は明瞭な有意の容量反応関係を示すことを内外に明らかにされています。講演では、スクリーニング効果説や過剰診断説などがある中で、福島事故後の多発と放射線被ばくとの関係を分かりやすく解説いただきます。

なお、セミナー開催にあたり、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から十分な感染防止策を行ったうえでセミナーを実施したいと考えておりますので、ご協力のほどよろしく願いたします。

主催：大阪小児科学会地域医療委員会